

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～ H組

教科担当者：（A組：高橋）（B組：濱谷）（C組：田村）（D組：高橋）（E組：濱谷）（F組：林田）（G組：田村）（H組：林田）

使用教科書：高等学校 論理国語 第一学習社

教科 国語 の目標：
【知識及び技能】基礎的言語能力（読む・書く・話す・聞く）およびコミュニケーション技能・能力の習得および向上
【思考力、判断力、表現力等】文章の種類を問わず、書き手の意図を的確に把握する力、および自分の考えを適切に表現する力の育成
【学びに向かう力、人間性等】自ら教科書以外の文章に多く触れていく姿勢の育成／他者に対する共感力や感受性の育成・向上

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・漢字や語句など語彙力の向上 ・論理的な文章や実用的な文章に数多く触れることで基礎的な読解力を向上させる ・「書く・話す・聞く」など言語表現にかかわる技能の向上	・論理的な文章の構造を把握し、論理や文意を適切に把握する力 ・問われているテーマについて自分の考えを持ち、それを適切に表現できる力、および聞く力	・日常的に自分たちが触れているものよりも長め、難しめの文章を意図的に読んでいこうとする姿勢 ・扱われているテーマについて自らより深く知り、考えていける力

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読						
1 学 期	A 単元：評論 【知識及び技能】 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「書くこと」において、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にする。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・粘り強く本文の構成と各段落の関係を捉え、学習課題に合わせてまとめ定期考查	・指導事項 語句、漢字、文章の構成（比喻） ・教材 評論 「自他の「間あい」（鷺田清一）」 ・一人1台端末の活用 等 振り返りシート、語句調べ				○	・言い換えや比喩を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解している。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 ・文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深めている。 ・「アイデンティティには必ず他者が必要だ」という筆者の主張を基に、自分の考えを論述したりしている。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	○	○	○	9
								○	○		1
	B 単元：推論 【知識及び技能】 ・推論の仕方について理解を深め使用する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・推論の種類について述べた文章を粘り強く読み、その内容について理解を深める。 定期考查	・指導事項 語句、漢字、推論 ・教材 「推論とは何か」（仲島ひとみ） 「帰納法のワナ― 一般化に対する疑問」（谷岡一郎） ・一人1台端末の活用 等 振り返りシート、語句調べ				○	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学んでいる。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検証し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を学んでいる。 ・文章を分析し、さまざまな観点から概要をまとめる方法を学んでいる。 ・推論のしかたについて理解し、活用する方法を学んでいる。	○	○	○	14
								○	○		1
	C 単元：評論 【知識及び技能】 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 定期考查	・指導事項 語句、漢字、評論（論拠の吟味） ・教材 「コミュニティ空間としての都市」（広井良典） ・一人1台端末の活用 等 振り返りシート、語句調べ					・情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培っている。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。				

[illegible]

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話	聞	書 読					
1 学 期	A 単元 説話（一） 【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 展開を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 説話の特質の理解を深める。	教材 『古今著聞集』『小式部尚侍 が大江山の歌の事』 指導内容 音読/説話について知る/活用の復 習/助動詞 端末活用 学びのふりかえりシート作成			○	・著名な和歌にまつわる話を読み、説話として 語り伝えられた背景事情について理解してい る。 ・説話という文章の種類や古典特有の表現に注 意して、展開や内容を的確に捉えている。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色、主と して和歌の修辞について理解を深めている。	○	○	○	10
	B 単元 和歌 【知識及び技能】 古典作品の特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開などを的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 和歌の修辞法を進んで理解する。	教材 『古今和歌集』『仮名序』 指導内容 音読/内容理解/和歌の修辞法 端末活用 文学史的知識を探索してまとめる 学びのふりかえりシート作成			○	・わが国の伝統文化の一つである和歌の表現の 特色を理解し、発展期の和歌を鑑賞している。 ・和歌という文章の種類や古典特有の表現に注 意して、内容を的確に捉えている。 ・和歌の修辞などの表現の特色について理解を 深めている。 ・文語のきまりについて理解を深めている。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	C 単元 随筆（一） 【知識及び技能】 文語のきまりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品に触れ自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 中世的なものの見方、考え方を理 解する。	教材 『徒然草』『あだし野の露消 ゆるときなく』 指導内容 音読/内容理解/助動詞 端末活用 古語単語を調べる 学びのふりかえりシート作成			○	・争乱と政変の時代を生きた作者の、ものの見 方や考え方を深めている。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注 意して、構成や展開、内容を的確に捉えてい る。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方 や考え方を深める姿勢を養っている。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	○	○	○	10
	D 単元 随筆（一） 【知識及び技能】 古典作品の特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の感じ方、考え方を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 表現の特色を評価する。	教材 『方丈記』『ゆく川の流れ』 指導内容 音読/内容理解/助動詞 端末活用 古語単語を調べる 意見交換 学びのふりかえりシート作成			○	・鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱い た、ものの見方や考え方を深めている。 ・和漢混淆文で書かれた随筆という文章の種 類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内 容を的確に捉えている。 ・作者の意図を捉えて内容を解釈し、構成や表 現について評価している。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
2 学 期	A 単元 物語（三） 【知識及び技能】 古典作品について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して読む。 【学びに向かう力、人間性等】 和漢混淆文の特色を理解する。	教材 『平家物語』『忠度の都落 ち』 指導内容 音読/軍記物語について知る/助動 詞 端末活用 古語単語を調べる 学びのふりかえりシート作成			○	・軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それ を支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深 めている。 ・軍記物語という文章の種類や和漢混交文とい う古典特有の表現に注意して、構成や展開、内 容を的確に捉えている。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	○	○	○	10
	B 単元 和歌 【知識及び技能】 修辞など表現の特色を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 表現に注意して内容を捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 和歌を積極的に鑑賞する。	教材 『新古今和歌集』 指導内容 音読/内容理解/和歌の修辞法 端末活用 文学史的知識を探索してまとめる 学びのふりかえりシート作成			○	・わが国の伝統文化の一つである和歌の表現の 特色を理解し、成熟期の和歌を鑑賞している。 ・和歌という文章の種類や古典特有の表現に注 意して、内容を的確に捉えている。 ・和歌の修辞などの表現の特色について理解を 深めている。 ・我が国の文化の特質について理解を深めてい る。	○	○	○	10
	定期考査						○	○		1
	C 単元 物語（二） 【知識及び技能】 語句の意味や用法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開などを的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 敬語表現を積極的に理解する。	教材 『源氏物語』『若紫』 指導内容 音読/内容理解/助動詞/時代背 景の理解 端末活用 古語単語を調べる 学びのふりかえりシート作成			○	・古文に慣れ、スムーズに音読できる。 ・対訳を読みながら作品の内容を把握できる。 ・文法事項（助動詞）について理解できる。 ・当時の感覚や価値観と、現代の価値観とを比 較しながら、共通項や違いについてまとめ、自 分の考えを述べられる。 ・古典作品のユーモアや美意識にある現代との 共通性を知り、関心を深めようとしている。	○	○	○	10
	D 単元 日記（一） 【知識及び技能】 語感を磨き語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 古典特有の表現に注意して読む。 【学びに向かう力、人間性等】	教材 『更級日記』『門出』 指導内容 音読/内容理解/助動詞/時代背 景の理解 端末活用 古語単語を調べる			○	・晩年になってまとめられた自伝的日記を読 み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像 を捉えている。 ・日記文学という文章の種類や古典特有の表現 に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えて いる。	○	○	○	10

高等学校 令和7年度（2 学年用）教科

地理歴史 科目 地理総合

教 科： 地理歴史

科 目： 地理総合

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組

教科担当者：（A組：塚本）（B組：塚本）（C組：塚本）（D組：塚本）（E組：塚本）（F組：塚本）（G組：磯崎）（H組：塚本）

使用教科書：（ 地理総合（東京書籍）、新詳高等地図（帝国書院） ）

教科 地理歴史

の目標：

- 【知識及び技能】 地理・歴史の概要を理解し、情報を整理し適切に調べる力を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】 学習した地理・歴史的事象を多面的・多角的に考察し、自己の意見をふまえて表現する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】 学習した地理・歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題に主体的に取り組む態度を養う。

科目 地理総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の生活文化の多様性や、地球的課題とそれに対する取組、防災への地域的取組を理解するとともに、多様な地図や地理情報システム（GIS）を用いて、諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調査し、まとめる技能を身に付けることができる。	地理的事象の意味、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などの地理的見方・考え方に着目し、概念を活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付けることができる。	地理的事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元 地球上の位置と時差 【知識及び技能】 緯度・経度、時差のしくみについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 緯度の違いや時差が私たちの生活に与える影響について考え、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。	・問い 地球上の位置の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。また、時差は私たちの生活とどのように結び付いているのだろうか。 ・指導事項 緯度・経度、時差とその計算 ・一人1 台端末の活用 GISの活用	【知識・技能】 緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について理解している。 【思考・判断・表現】 緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		3
	単元 地図の種類と役割 【知識及び技能】 地図や地理情報システムの種類や役割について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地理情報の表現及び読み取りを通して、その特徴について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。	・問い 地図や地理情報システムにはどのような役割や種類があるのだろうか。また、私たちの生活にどのように役立っているのだろうか。 ・指導事項 図法、地形図、GIS ・一人1 台端末の活用 GISの活用・地図の作成	【知識・技能】 地図や地理情報システムの種類や役割、主な活用場面について理解している。 【思考・判断・表現】 様々な地図から地理情報を読み取り、多面的多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理情報システム（GIS）のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
	単元 現代世界の国家と領域 【知識・技能】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について理解する。 【思考・判断・表現】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について、多面的・多角的に考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に積極的に取り組む。	・問い 国家の領域や国境はどのように定まっているのだろうか。また、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのだろうか。 ・指導事項 領土、主権、日本の領土、領土問題 ・一人1 台端末の活用 GISの活用	【知識・技能】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について理解している。 【思考・判断・表現】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 国境の種類、国家の領域、国家の主権、日本の領土問題について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	2
	単元 世界の地形と人々 【知識及び技能】 様々な地形の種類とその特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な地形と人々の生活とのかかわりについて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。	・問い 人々はこうした地形とどのように関わり合っているのだろうか。世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。 ・指導事項 大地形・小地形 ・一人1 台端末の活用 GISの活用	【知識・技能】 様々な地形の種類とその特徴について理解できる。 【思考・判断・表現】 様々な地形の種類とその特徴について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な地形の種類とその特徴について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学 期	単元 世界の気候と人々 【知識及び技能】 各地の気候とその特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 各地の気候と人々の生活とのかかわりについて考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。	・問い 人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのだろうか。世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。 ・指導事項 気温、降水、風、植生、気候区分 ・一人1 台端末の活用 GISの活用	【知識・技能】 各地の気候とその特徴について理解できる。 【思考・判断・表現】 各地の気候とその特徴について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 各地の気候とその特徴について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	7
	単元 世界の言語・宗教 【知識及び技能】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について理解する。 【思考・判断・表現】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習課題に積極的に取り組む。	・問い 言語や宗教は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。 ・指導事項 言語、宗教 ・一人1 台端末の活用 GISの活用	【知識・技能】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について理解している。 【思考・判断・表現】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 言語と民族の関わり、宗教と人々の生活への影響について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1

2 学 期	単元 地球的課題と国際協力 【知識・技能】 SDGsや地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 【思考・判断・表現】 地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、考察・表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に積極的に取り組む。	・問い 地球的課題の背景には何があるのだろうか。また、課題の解決に向けて、私たちには何ができるのだろうか。 ・指導事項 SDGs、エネルギー資源、人口問題、食糧問題、貧困問題、都市・居住問題 ・一人1台端末の活用 GISの活用	【知識・技能】 SDGsや地球的課題の諸問題について理解している。 【思考・判断・表現】 SDGsや地球的課題の諸問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 SDGsや地球的課題の諸問題について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3 学 期	単元 自然環境と防災 生活圏の調査と地域の展望 【知識・技能】 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 【思考・判断・表現】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習課題に積極的に取り組む。	・問い 日本や世界の地形や気候には、どのような特徴があるのだろうか。また、それらと自然災害にはどのような関係があり、どのような被害をもたらすのだろうか。自然災害の発生に備えてどのような取組が必要なのだろうか。 ・指導事項 SDGs、エネルギー資源、人口問題、食糧問題、貧困問題、都市・居住問題 ・一人1台端末の活用 GISの活用	【知識・技能】 各地でみられる自然災害とそれに対する備えや対応について理解している。 【思考・判断・表現】 各地でみられる自然災害とそれに対する備えや対応について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 教科 地理歴史 科目 日本史探究

教 科： 地理歴史 科 目： 日本史探究 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 C D G H 組

教科担当者：田中啓子（全クラス）

使用教科書：（ 詳説日本史 山川出版社 ）

教科 地理歴史 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】地理・歴史の概要を理解し、情報を整理し適切に調べる力を身に着ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】学習した地理・歴史的事象を多面的・多角的に考察し、自己の意見を踏まえて表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】学習した地理・歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に取り組む態度を養う。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
先史・古代から近世はじめまでの日本史の概要を理解し、情報を整理し適切に調べる力を身に着ける。	学習した日本の歴史的事象を多面的・多角的に考察し、自己の意見を踏まえて表現する力を養う。	学習した日本の歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
1 学 期	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立にいたる時期の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・導入：日本史学習について ・文化のはじまり（旧石器時代・縄文文化） ・農耕社会の成立（弥生文化・小国の分立・邪馬台国）	【知識・技能】 旧石器時代～弥生時代の歴史の流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	8
	ヤマト朝廷と古墳文化の展開、飛鳥朝廷と仏教文化の興隆について、歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・古墳文化の展開（古墳の出現と大和政権・東アジア諸国との交渉と大陸文化受容・ヤマト政権と政治制度） ・飛鳥の朝廷（東アジアの動向・飛鳥朝廷と文化） ・農耕社会の成立（弥生文化・小国の分立・邪馬台国）	【知識・技能】 ヤマト朝廷と古墳文化・飛鳥朝廷と仏教文化の歴史の流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	9
	中間考査			○	○		1
	大化改新から壬申の乱までの政治の流れと律令制度、平城京と奈良時代の政治、白鳳・天平文化について歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・律令国家への道（大化改新・律令制度と官僚制・民衆の負担） ・平城京の時代（遣唐使・平城京・藤原氏の進出と政界の動揺） ・律令国家の文化（白鳳文化・天平文化）	【知識・技能】 大化改新から壬申の乱までの政治の流れと律令制度、平城京と奈良時代の政治、白鳳・天平文の歴史の流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	17
	期末考査			○	○		1
2 学 期	平安初期の政治改革、地方と貴族社会の変容、平安新仏教と弘仁貞観文化、摂関政治と国風文化について歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・律令国家の変容（平安遷都・蝦夷との闘い・平安初期の政治改革・地方と貴族社会の変容・唐風文化と平安仏教） ・貴族社会の展開（藤原北家の発展・摂関政治・国際関係の変化） ・国風文化（国文学の発達・浄土の信仰・国風美術）	【知識・技能】 平安初期の政治改革、地方と貴族社会の変容、平安新仏教と弘仁貞観文化、摂関政治と国風文化について歴史的流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	10
	地方政治の混乱と武士の台頭、荘園制の発達、平将門・藤原純友の乱について歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・地方政治の展開と武士（荘園の発達・地方の反乱と武士の成長）	【知識・技能】 地方政治の混乱と武士の台頭、荘園制の発達、平将門・藤原純友の乱について歴史的流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	8
	中間考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
2 学 期	院政と武士の躍進、平氏政権、平安末期の文化、鎌倉幕府の成立、承久の乱と執権政治について歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・院政と平氏政権 (院政期の社会・平氏政権・院政期の文化) ・鎌倉幕府の成立 (源平の争乱・鎌倉幕府) ・武士の社会 (承久の乱と執権政治・武士の生活)	【知識・技能】 院政と武士の躍進、平氏政権、平安末期の文化、鎌倉幕府の成立、承久の乱と執権政治について歴史の流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	10
	モンゴルの来襲と幕府の衰退、鎌倉文化、室町幕府の成立について歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・モンゴルの来襲と幕府の衰退 (モンゴル来襲・琉球とアイヌの動き・幕府の衰退) ・鎌倉文化 (鎌倉仏教・中世文学の起こり・美術の新傾向) ・室町幕府の成立 (鎌倉幕府の滅亡・建武の新政・南北朝の争乱・室町幕府・東アジアの交易)	【知識・技能】 モンゴルの来襲と幕府の衰退、鎌倉文化、室町幕府の成立について歴史の流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	9
	期末考査			○	○		1
3 学 期	幕府の衰退と庶民の台頭、室町文化、戦国大名の登場について歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・幕府の衰退と庶民の台頭 (惣村の形成・応仁の乱・農業と商工業の発達) ・室町文化 (動乱期の文化・室町文化の成立と展開・庶民文化と新仏教) ・戦国大名の登場 (戦国大名と分国支配・都市の発展と町衆)	【知識・技能】 幕府の衰退と庶民の台頭、室町文化、戦国大名の登場について歴史の流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	14
	織豊政権、桃山文化について歴史的環境と文化の形成とを関連付けて理解し、多面的・多角的に考察する。	・織豊政権 (鉄砲伝来と南蛮貿易、キリスト教・織田政権・豊臣秀吉の全国統一・対外政策と侵略戦争) ・桃山文化 (桃山文化と美術・芸能の新展開・南蛮文化)	【知識・技能】 幕府の衰退と庶民の台頭、室町文化、戦国大名の登場について歴史の流れを総合的に理解し効果的に調べる技能が身についている。 【思考・判断・表現】 上記の歴史的事象を多面的・多角的に考察し説明・表現する力を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 上記の歴史的事象をよりよい社会の実現のために主体的に追求しようとする態度を持っている。	○	○	○	15
	学年末考査			○	○		1
							合計
							105

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史探究

教科：地理歴史

科目：世界史探究

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 ABCDEF 組

教科担当者：（A組：磯崎）（B組：加藤）（CD組：磯崎）（E組：磯崎）（F組：磯崎）

使用教科書：（詳説世界史探究 山川出版社）

教科 地理歴史

の目標：

【知識及び技能】 地理・歴史の概要を理解し、情報を整理し適切に調べる力を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 学習した地理・歴史的事象を多面的・多角的に考察し、自己の意見を踏まえて表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 学習した地理・歴史的事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に取り組む態度を養う。

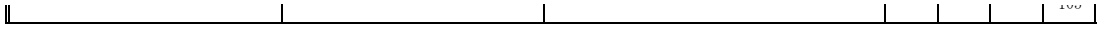
科目 世界史探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	世界史へのまなざし1 【知識及び技能】 自然環境と人類の関わりを概要を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 人類の誕生を地球46億年の歴史のなか位置づけて表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 人類の誕生を意欲的に探究し、自然環境の変化と世界史の関係性を考察させる。	・問い 人類の誕生を地球46億年の歴史のなか位置づけたら、どのようなことがわかるだろうか。 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 自然環境と人類の関わり、および人類の進化の過程の概要を理解している。 【思考・判断・表現】 長期にわたる地球気温の変化を示す統計資料や「地球カレンダー」などの資料をもとに、地球の自然環境が直面している危機およびその克服へ向けた取り組みを、多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然環境と人類の進化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	1
	単元 文明の成立と古代文明の特質 【知識及び技能】 おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 古代文明の歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 古代文明の歴史的特質を主体的に追究させる。	・問い 各地の古代文明はどのような特徴をもっていたのだろうか。また、それらに共通する特質は何だろうか。 ・指導事項 ①文明の誕生 ②古代オリエント文明とその周辺 ③南アジアの古代文明 ④中国の古代文明 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 各地域の古代文明の特質を理解している。 【思考・判断・表現】 古代文明の歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明や諸地域の歴史的特質について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	単元 中央ユーラシアと東アジア世界 【知識及び技能】 中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生産などに与えた影響を考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を主体的に追究させ、問いに対して既習事項を基に積極的に取り組ませる。	・問い 2つの世界はそれぞれどのような特徴をもつ社会を形成し、またどのような関係にあったのだろうか。 ・指導事項 ①中央ユーラシア—草原とオアシスの世界 ②秦・漢帝国 ③中国の動乱と変容 ④東アジア文化圏の形成 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 【思考・判断・表現】 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	8
	単元 南アジア世界と東南アジア世界の展開 【知識及び技能】 南アジア、東南アジア世界の多様性を生み出した地理的環境について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 東南アジアの特質について考察し、自分の言葉で表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 東南アジアの歴史的特質を主体的に追究させ、問いに対して既習事項を基に積極的に取り組ませる。	・問い 南アジアで生まれた宗教はどのように展開し、また、社会にどのような影響を与えたのだろうか。 ・指導事項 ①仏教の成立と南アジアの統一国家 ②インドの古典文化とヒンドゥー教の定着 ③東南アジア世界の形成と展開 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 【思考・判断・表現】 南アジアと東南アジアの歴史的特質について考察し、両者の共通点や相違点を挙げながら自分の言葉で表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 東南アジアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10
	単元 西アジアと地中海周辺国家形成 【知識及び技能】 西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 西アジアの身分・階級・王権・宗教に関する資料から情報を読み取ったりまとめたりさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 西アジアと地中海周辺国家形成の歴史的特質を主体的に追究させようとして、協働学習を行うことで問に対して積極的に取り組ませる。	・問い 西アジアと地中海周辺に現れた諸国家は、どのような特徴をもっていたのだろうか。 ・指導事項 ①イラン諸国家の興亡とイラン文明 ②ギリシア人の都市国家 ③ローマと地中海支配 ④キリスト教の成立と発展 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。 【思考・判断・表現】 西アジアと地中海地域周辺の歴史的な特質について考察し、自分の言葉で表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・古代ギリシア・ローマ、キリスト教の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	単元 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	・問い イスラーム教の成立は、西アジア・	【知識・技能】 イスラーム世界の特徴を理解している。				

	【知識及び技能】 アケメネス朝が広大な領域に中央集権の支配を築ことができた背景や要因を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 パルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ユーラシア大陸をつなぐネットワークについての理解を史資料を基に主体的に追究させる。	ヨーロッパの人々や社会にどのような影響を与えたのだろうか。 ・指導事項 ①アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ②ヨーロッパ世界の形成 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【思考・判断・表現】 イスラーム世界の最も大きな特徴について、根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ユーラシア大陸をつなぐネットワークについての理解を主体的に追究している。	○	○	○	10
	単元 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 【知識及び技能】 イスラーム世界によって形成された陸と海のネットワークを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 南アジアや東南アジアでイスラーム化が進んだ背景について考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 イスラーム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組ませる。	・問い イスラーム教はどこまで広がり、諸地域をどのように結び付けたのだろうか。 ・指導事項 ①イスラーム教の諸地域への伝播 ②西アジアの動向 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 イスラームの拡大がユーラシア各地にもたらした変化を理解している。 【思考・判断・表現】 イスラームの拡大がユーラシアの各地にもたらした変化について考察し、自分の言葉で表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 イスラーム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
2 学期	定期考査			○	○		1
	単元 ヨーロッパ世界の変容と展開 【知識及び技能】 ヨーロッパ封建社会の変化を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 中世ヨーロッパの特徴とその後の変化について、古代史からの学習を踏まえて、積極的に考察させる。	・問い いわゆる中世ヨーロッパにはどのような特徴があり、それはどのように関わっていたのだろうか。 ・指導事項 ①西ヨーロッパの封建社会とその展開 ②東ヨーロッパ世界の展開 ③西ヨーロッパの世界の変容 ④西ヨーロッパの中世文化 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 ・中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について、従来との比較をふまえて理解している。 【思考・判断・表現】 ・ヨーロッパの封建社会が変化していく要因について考察し、自分の言葉で表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・中世の西ヨーロッパについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	単元 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 【知識及び技能】 モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し、理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 モンゴル帝国時代の東西交流の新しいさを多面的・多角的に考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し、問いに対して主体的に取り組ませる。	・問い 東アジアの諸国家はどのような性格をもち、またモンゴル帝国はどのような役割を果たしたのだろうか。 ・指導事項 ①アジア諸地域の自立化と宋 ②モンゴルの大帝国 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 ・10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。 ・モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。 【思考・判断・表現】 西アジアや南アジアの諸帝国の統治政策で、何が最も重要であったか根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 10～12世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	単元 大交易・大交流の時代 【知識及び技能】 ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していた動機や背景を多面的・多角的に考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し協働学習を通じて、追及させる。	・問い 「世界の一体化」が加速した背景と、その進行による諸地域の変貌はどのようなものだったのだろうか。 ・指導事項 ①アジア交易世界の興隆 ②ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 14～17世紀にかけてアジア諸地域間の交易が拡大したことを理解している。 【思考・判断・表現】 『南蛮屏風』などの図像資料や鄭曉『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
3 学期	単元 アジア諸帝国の繁栄 【知識及び技能】 ・オスマン帝国、ムガル帝国、清の基礎が築かれた経緯を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 オスマン帝国やムガル帝国、清の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ムガル帝国、オスマン帝国、清について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組ませる。	・問い これらの諸帝国が共通することはいくつだろうか。また、それぞれどのような特徴があったのだろうか。 ・指導事項 ①オスマン帝国とサファヴィー朝 ②ムガル帝国の興隆 ③清代の中国と隣接諸地域 ・一人1台端末の活用、史資料の読解等	【知識・技能】 ・オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ・ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 【思考・判断・表現】 ・17世紀以降の清を中心とするアジア諸国の結び付きについて、明の時代と比較し、その変化を考察して、自分の言葉で表現している。 ・オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 ・ムガル帝国において非イスラーム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ムガル帝国、オスマン帝国、清について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
				○	○		合計 100



高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 公民 科目 公共

教 科： 公民

科 目： 公共

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 A 組～ H 組

教科担当者： (A組： 田中)

(B組： 郷家)

(C組： 郷家)

(D組： 郷家)

(E組： 郷家)

(F組： 郷家)

(G組： 郷家)

(H組： 郷家)

(組：)

(組：)

(組：)

(組：)

使用教科書： (『高等学校 公共』(第一学習社))

教科 公民

の目標： 社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成

【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判

【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民

科目 公共

の目標： 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、判断する力を養う。	現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚する人間性を培う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 【主体的に学習に取り組む態度】 自らを成長させながら、社会の中で生きていくための人生観、世界観なし価値観の基礎を培うことの重要性を理解させる。	社会に生きる私たち：公共的な空間とは。青年期の心理には、どのような特徴があるのだろうか。「おとな」になるとは 個人の尊厳と自主・自立 多様性と共通性 キャリア形成と自己実現 伝統や文化とのかかわり	【知識・技能】 自らの体験などを振り返り、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解できる。 【思考・判断・表現】 青年期の意味を考えさせることを通して、他者とともに生きる自らの生き方について多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現している。	○	○	○	4
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 【主体的に学習に取り組む態度】 主張の根底にある考え方の理解をもとに、課題を主体的に追究、解決させる。	人間と社会のあり方についての見方・考え方 実社会の事例から考える～環境保護・生命倫理	【知識・技能】 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解できる。 【思考・判断・表現】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、環境保護や生命倫理などの実社会の問題を考察し、表現できる。	○	○	○	4
	第3章 公共的な空間における基本的原理 【主体的に学習に取り組む態度】 人間の尊厳が守られるために必要なことについてじぶんにできることは何かを考え、取り組ませる。	公共的な空間を形成するための考え方 よりよく生きる行為者として活動するために 人間の尊厳と平等 個人の尊重 民主政治の基本的原理 法の支配	【知識・技能】 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解できる。 【思考・判断・表現】 なぜ人間の尊厳が守られることが必要かを考察し、表現できる。	○	○	○	6
	中間審査			○	○		1
	【主体的に学習に取り組む態度】 立憲主義の考え方に基づいて、日本国憲法と現代政治のあり方との関連について主体的に追究させる。	自由・権利と責任・義務 世界のおもな政治体制 日本国憲法に生きる基本原理	【知識・技能】 国のあらゆる法の基盤となる最高法規であるという立憲主義の考え方とその現代的な意味を理解できる。 【思考・判断・表現】 民主主義の問題点について、多数者の専制を考察する活動を通して、多面的・多角的に考察し、表現できる。	○	○	○	6
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 【主体的に学習に取り組む態度】 すべての人の基本的人権を守り、確保させようとする態度を身につけさせる。	主題1 法や規範の意義と役割 私たちの生活と法 法と基本的人権 自由・平等と法・規範	【知識・技能】 法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解できる。 【思考・判断・表現】 身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について理解し、その解決策を考えることができる。	○	○	○	
	【主体的に学習に取り組む態度】 18歳で成年になる意義をふまえて、契約の意味や責任を負うことについて学び、自分にとって必要な契約かを慎重に考えさせる。	主題2 契約と消費者の権利と責任 さまざまな契約と法 消費者の権利と責任	【知識・技能】 契約自由の原則の内容や、契約によって様々な責任が生じることを理解している。 【思考・判断・表現】 契約自由の原則に例外があるのはなぜか、考察できる。	○	○	○	6
	【主体的に学習に取り組む態度】 最高裁が「憲法の番人」と呼ばれていることや、国民の権利を守るために三権分立のしくみが採用されていることなどの理解を通して、法の支配を実現するために、公共的な空間をつくる自立的な主体としての自覚をもたせる。	主題3 司法参加の意義 裁判所と人権保障	【知識・技能】 公正な裁判を確保するために、司法権および裁判官の独立が保障されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 公正かつ慎重な裁判をおこなうために、日本の裁判では三審制が採用されていることを考察できる。	○	○	○	5
	期末審査			○	○		1

2 学 期	第2章 政治的な主体となる私たち 【主体的に学習に取り組む態度】 民主政治において主権者である国民が積極的に政治に参加することが重要であることが重要であることを理解し、日本や世界の課題を解決する政策について考察させ、提案させる。	主題4 政治参加と公正な世論の形成 選挙の意義 政治参加と世論形成 国会と立法 内閣と行政の民主化 地方自治と住民の福祉 主題5 国際社会と国家主権 国家と国際法	【知識・技能】 民主政治における選挙の重要性を理解し、やがて主権者として政治参加できる。 【思考・判断・表現】 選挙や多数決では反映されない多様な民意の存在を尊重し、これからの日本に求められる政策を考察し、表現できる。 国会の課題解決に向けて、事実をもとに協働して考察したり、構想したりしたことを論拠をもって表現できる。	○	○	○	5
	【主体的に学習に取り組む態度】 日本と近隣諸国の関係に関心をもち、両者の考えの違いを理解し、国家間の問題のよりよい解決策について主体的に考察させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 国際平和を実現するために、日本の平和主義や安全保障政策はどのようにあるべきか、多面的に考察させる。	国境と領土問題 国際連合の役割と課題 主題6 日本の安全保障と防衛 平和主義と安全保障 核兵器の廃絶と国際平和	【知識・技能】 国際社会の現状と課題や、日本が果たすべき役割を理解できる。 【思考・判断・表現】 世界の様々な領土問題の原因と現状について、考察できる。 【知識・技能】 日本国憲法における平和主義の原理と、その解釈の変遷について理解できる。 【思考・判断・表現】 国際平和と日本の平和を実現していくために果たすべき日本の役割や政策について考察し、表現できる。	○	○	○	6
	中間考査			○	○		1
	【主体的に学習に取り組む態度】 紛争や難民問題に関心をもち、これらの問題についてどのような解決策が望ましいか、主体的に考察させる。 第3章 経済的な主体となる私たち	主題7 国際社会の変化と日本の役割 今日の国際社会 人種・民族問題と地域紛争 国際社会における日本の役割 主題8 雇用と労働問題 私たちと経済	【知識・技能】 グローバル化が進化した国際社会の特徴について、理解できる。 様々な人種・民族問題や難民問題の原因について、理解できる。 【思考・判断・表現】 国際社会において分断化が進む要因やその現状について、考察できる。 人種・民族問題や難民問題の原因や現状について考察できる。	○	○	○	6
	【主体的に学習に取り組む態度】 ワーク・ライフ・バランスの実現をめざすために、自らの働き方を構想させる。	労働者の権利と労働問題 主題9 社会の変化と職業観 技術革新の進展と産業構造の変化 企業の活動 農林水産業の現状とこれから	【知識・技能】 日本型雇用慣行とその変化の要因、今日の労働問題や仕事と生活の調和の実現を理解できる。 【思考・判断・表現】 労働環境の変化や労働問題、労働法制の整備について、多面的・多角的に考察し、公正に判断できる。 【知識・技能】 技術革新の進展による産業構造の高度化、サービス化・ソフト化への変化を理解できる。 【思考・判断・表現】 AIなどの技術革新が身近になることで、生活がどのように変わるかを多面的・多角的に考え、判断できる。	○	○	○	5
	期末考査			○	○		1
	【主体的に学習に取り組む態度】 経済的な主体として、また効率的で公正な経済政策を選択できる主権者として、経済的な見方・考え方を働かせるよう導く。 【主体的に学習に取り組む態度】 金融に関する自己の選択を主体的に行おうとさせる。	主題10 市場経済の機能と限界 市場経済と経済経営 市場経済のしくみ 経済発展と環境保全 経済成長と国民福祉 主題11 金融のはたらき 金融の意義や役割	【知識・技能】 価格の自動調節機能を理解し、市場の失敗に関する諸資料を読み取ることができる。 【思考・判断・表現】 市場の失敗に対する政府の規制のあり方を判断し、自らの考えを説明したり、発表したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 市場経済のしくみに関して、わかったことや気づいたことを相手に伝えるように説明したり、問題や疑問を解決しようとしたりしている。 【知識・技能】 金融機関や日本銀行の役割を理解できる。 【思考・判断・表現】 日本銀行の目的と手段について、通貨の供給量の視点から多面的・多角的に考察し、説明できる。	○	○	○	6
	【主体的に学習に取り組む態度】 今後の財政のあり方について、現役世代と将来世代の立場を考慮し主体的に考察させる。 【主体的に学習に取り組む態度】 経済のグローバル化にともなって発生した問題の解決策やこれからの国際社会のあり方について、主体的に考察させる。	主題12 財政の役割と社会保障 政府の経済的役割と租税の意義 社会保障と国民福祉 主題13 経済のグローバル化 国際分業と国際貿易体制 国際収支と為替相場 経済のグローバル化と日本 地域的経済統合の動き 国際社会における貧困や格差 地球環境問題 資源・エネルギー問題 国際社会のこれから	【知識・技能】 財政の三つの機能を理解できる。 【思考・判断・表現】 政府が公債を発行する目的と課題について多面的・多角的に考察し、説明できる。 【知識・技能】 グローバル化する経済の現状と問題点について理解できる。 【思考・判断・表現】 経済のグローバル化が日本や世界におよぼす影響について、考察できる。	○	○	○	6
	学年末考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B, 数学C

教科： 数学 科目： 数学B, 数学C 単位数： 3 単位
対象学年組：第 2 学年 A D F 組
教科担当者：（A・D・F組： 久保・鯉沼 ）
使用教科書：（ 高等学校 数学B（数研出版）, 高等学校 数学C（数研出版） ）
教科 数学 の目標：

【知識及び技能】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を 簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしたりする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりする。

科目 数学B, 数学C の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【等差数列と等比数列】 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・等差数列・等比数列の仕組みから、一般項やその和を求めることができる。 【思考力】 ・等差数列・等比数列の仕組みから、一般項やその和を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・等差数列・等比数列の仕組みに関心をもち、それらを一般項や和の考察に活用しようとする。	○	○	○	8
	【等差数列と等比数列】 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・等差数列・等比数列の仕組みから、一般項やその和を求めることができる。 【思考力】 ・日常・社会の事象を数列として捉え、数列の考えを用いて考察できる。 【学びに向かう力】 ・等差数列・等比数列の仕組みに関心をもち、それらを一般項や和の考察に活用しようとする。	○	○	○	7
	【平面上のベクトル】 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・ベクトルの意味、相当、和、差、実数倍、位置ベクトル、内積、成分表示などを理解する。 【思考力】 ・ベクトルの演算法則を考察する。 ・位置ベクトルを用いて図形やその方程式を代数的に表現し、性質を考察することができる。 【学びに向かう力】 事象を数学的にとらえ、平面図形の問題解決に活用する。 図形問題や直線の方程式をベクトルで表現する数学的な見方を養い、意欲的に学ぼうとしている。	○	○	○	4
	定期考查			○	○	○	1
	【いろいろな数列】 和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・いろいろな数列について、その規則性を見つけ、理解することができる。 ・数列の和を Σ 記号を利用して表したり、その計算ができる。 【思考力】 ・数列の和において、 Σ 記号を利用して考察することができる。 【学びに向かう力】 ・いろいろな数列の規則性に関心をもち、それを一般項や和を求める考察に活用しようとする。	○	○	○	11
	【漸化式と数学的帰納法】 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・漸化式の意味や、その仕組みを理解している。 【思考力】 ・漸化式から一般項を導く方法を考えることができる。 【学びに向かう力】 ・漸化式から一般項を導いたり、漸化式や数学的帰納法を事象の考察に活用しようとする。	○	○	○	10

	【平面上のベクトル】 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・ベクトルの意味、相当、和、差、実数倍、位置ベクトル、内積、成分表示などを理解する。 【思考力】 ・ベクトルの演算法則を考察する。 ・位置ベクトルを用いて図形やその方程式を代数的に表現し、性質を考察することができる。 【学びに向かう力】 事象を数学的にとらえ、平面図形の問題解決に活用する。 図形問題や直線の方程式をベクトルで表現する数学的な見方を養い、意欲的に学ぼうとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○	○	1
	【確率分布】 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・確率分布について、期待値、分散・標準偏差などを求めることができる。 【思考力】 ・確率分布について、期待値、分散・標準偏差などを用いて、その傾向を的確に表現することができる。 【学びに向かう力】 ・確率分布について、期待値、分散・標準偏差などを用いて分布の傾向を把握し、それらを事象の考察に活用することができる。	○	○	○	20
	【平面上のベクトル】 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・ベクトルの意味、相当、和、差、実数倍、位置ベクトル、内積、成分表示などを理解する。 【思考力】 ・ベクトルの演算法則を考察する。 ・位置ベクトルを用いて図形やその方程式を代数的に表現し、性質を考察することができる。 【学びに向かう力】 事象を数学的にとらえ、平面図形の問題解決に活用する。 図形問題や直線の方程式をベクトルで表現する数学的な見方を養い、意欲的に学ぼうとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○	○	1
	【統計的な推測】 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・全数調査と標本調査の意味を理解している。 【思考力】 ・統計的な事象の考察に、標本調査を利用する考え方を身につけている。 【学びに向かう力】 ・標本調査について、統計的な事象の考察に活用することができる。	○	○	○	14
	【空間のベクトル】 ベクトルの概念が空間内においても適用できることに関心を示し、平面ベクトルと対比させながら、積極的に空間図形の問題に活用することができるようにする。	・指導事項 指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・空間内での座標や位置ベクトルの表現を理解し、線分の分点、距離の公式、ベクトル方程式などの既知の知識を用いて事象の考察をすることができる。 【思考力】 空間および空間座標の表現を理解し、位置ベクトルを用いることで、空間内の直線、平面、球などの図形の性質を代数的に考察し、的確に表現・処理することができる。 【学びに向かう力】 平面ベクトルで学習した内容を拡張し、空間図形の問題解決に活用する。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	【統計的な推測】 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	・指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・標本調査を利用して、標本平均の様子を調べることができる。 【思考力】 ・標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。 【学びに向かう力】 ・標本調査について、統計的な事象の考察に活用することができる。	○	○	○	9
	【空間のベクトル】 ベクトルの概念が空間内においても適用できることに関心を示し、平面ベクトルと対比させながら、積極的に空間図形の問題に活用することができるようにする。	・指導事項 指導事項 基本的な概念・原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 「4プロセス 数学B」 「練習ドリル 数学B」 ・一人1台端末の活用 タブレットを用いた多面的理解及び自己の考察の発表	【知識】 ・空間内での座標や位置ベクトルの表現を理解し、線分の分点、距離の公式、ベクトル方程式などの既知の知識を用いて事象の考察をすることができる。 【思考力】 空間および空間座標の表現を理解し、位置ベクトルを用いることで、空間内の直線、平面、球などの図形の性質を代数的に考察し、的確に表現・処理することができる。	○	○	○	5

		己の考察の発表	【字びに同かう力】 平面ベクトルで学習した内容を拡張し、空間図形の問題解決に活用する。				
定期考査				○	○	○	1
							合計
							105

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理

教科：理科 科目：物理

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 組～組

教科担当者：（F組 原田）

使用教科書：（物理709「高等学校 物理」 第一学習社、「改訂版 リードLightノート物理」 数研社）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を身につける。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返りなど、科学的に探究しようとする態度を身につける。

科目 物理

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮設の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を学習し、また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身につける。	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を身につける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1節 平面運動と放物運動 ①平面運動 ②放物運動 【知識・技能】 ・変位や速度、加速度などについての基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・速度の合成・分解や相対速度に関する現象を観察し、それぞれを式で表すことができる。 ・水平投射、斜方投射の運動の特徴を踏まえ、運動のようすを表す式を導くことができる。 ・アルミニウム箔のカップを落下させたときのようすから、空気抵抗の大きさを実感し、終端速度と質量との関係を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・変位や速度、加速度の違いを理解し、それぞれの関係を式で表すことができる。 ・水平投射、または斜方投射された物体の速度を分解して、それぞれの運動の特徴を説明することができる。 ・空気抵抗を受けて落下する物体について、運動方程式から終端速度と質量との関係を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・平面運動での位置や変位、速度、加速度などを表すベクトルについて、「物理基礎」で学習したベクトルの内容と関連させながら意欲的に理解しようとする。 ・「物理基礎」で学習した等速直線運動や落下運動の式をもとに、水平投射と斜方投射について、定量的に考えようとする。 ・アルミニウム箔のカップが落下するようすなどに関心をもち、それらの現象を物理的に考えようとする。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・変位や速度、加速度などについての基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・速度の合成・分解や相対速度に関する現象を観察し、それぞれを式で表すことができる。 ・水平投射、斜方投射の運動の特徴を踏まえ、運動のようすを表す式を導くことができる。 ・アルミニウム箔のカップを落下させたときのようすから、空気抵抗の大きさを実感し、終端速度と質量との関係を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・変位や速度、加速度の違いを理解し、それぞれの関係を式で表すことができる。 ・水平投射、または斜方投射された物体の速度を分解して、それぞれの運動の特徴を説明することができる。 ・空気抵抗を受けて落下する物体について、運動方程式から終端速度と質量との関係を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・平面運動での位置や変位、速度、加速度などを表すベクトルについて、「物理基礎」で学習したベクトルの内容と関連させながら意欲的に理解しようとする。 ・「物理基礎」で学習した等速直線運動や落下運動の式をもとに、水平投射と斜方投射について、定量的に考えようとする。 ・アルミニウム箔のカップが落下するようすなどに関心をもち、それらの現象を物理的に考えようとする。	○	○	○	7
第2節 剛体のつりあい ①剛体にはたらく力とその合力 ②剛体の重心とつりあい 【知識・技能】 ・バットのひねりあいを通して、力のモーメントの大きさは、力の大きささうでの長さに関係すること理解する。 ・力が剛体におよぼすはたらきを考え、力のモーメントを用いて表すことができる。 ・平行でない2力、平行な2力の違いを理解し、それぞれ適切に力の合成を行うことができる。 ・剛体がつりあうときの力、力のモーメントの関係をそれぞれ確認し、剛体の重心を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・ばねばかりとおもりを用いた実験から、剛体がつりあう条件を見出すことができる。 ・剛体がつりあう条件について、式を用いて考えようとする。 ・力のつりあいを用いて、さまざまな形状の剛体の重心を考えることができる。 ・物体を傾けたときに転倒する条件について、力のモーメントのつりあいから調べることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・剛体がつりあいの状態にあるときの条件を予想し、主体的に実験に取り組んでいる。 ・質点と剛体の違いを踏まえ、剛体にはたらく力のはたらきについて意欲的に考察しようとする。 ・重心を表す式を利用して、さまざまな形状の剛体で重心の位置を調べようとする。 ・日常での経験と照らし合わせて力のモーメントを考え、物理学的に理解しようとする。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・バットのひねりあいを通して、力のモーメントの大きさは、力の大きささうでの長さに関係すること理解する。 ・力が剛体におよぼすはたらきを考え、力のモーメントを用いて表すことができる。 ・平行でない2力、平行な2力の違いを理解し、それぞれ適切に力の合成を行うことができる。 ・剛体がつりあうときの力、力のモーメントの関係をそれぞれ確認し、剛体の重心を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・ばねばかりとおもりを用いた実験から、剛体がつりあう条件を見出すことができる。 ・剛体がつりあう条件について、式を用いて考えようとする。 ・力のつりあいを用いて、さまざまな形状の剛体の重心を考えることができる。 ・物体を傾けたときに転倒する条件について、力のモーメントのつりあいから調べることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・剛体がつりあいの状態にあるときの条件を予想し、主体的に実験に取り組んでいる。 ・質点と剛体の違いを踏まえ、剛体にはたらく力のはたらきについて意欲的に考察しようとする。 ・重心を表す式を利用して、さまざまな形状の剛体で重心の位置を調べようとする。 ・日常での経験と照らし合わせて力のモーメントを考え、物理学的に理解しようとする。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
第3節 運動量の保存 ①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数 【知識・技能】 ・運動量と力積の物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・F-tグラフから力積、力、衝突時間の関係を導くことができる。 ・運動量保存の法則と反発係数の式を用いて、さまざまな衝突における速度や運動量を計算することができる。 ・反発係数の値に応じて、衝突による力学的エネルギーの変化を計算することができる。 ・テニスのボールやビリヤード球などを用いて、はね上がった高さを測定することで、床との間の反発係数を求めることができる。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・運動量と力積の物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・F-tグラフから力積、力、衝突時間の関係を導くことができる。 ・運動量保存の法則と反発係数の式を用いて、さまざまな衝突における速度や運動量を計算することができる。 ・反発係数の値に応じて、衝突による力学的エネルギーの変化を計算することができる。 ・テニスのボールやビリヤード球などを用いて、はね上がった高さを測定することで、床との間の反発係数を求めることができる。				

1学期	ことができる。 ・反発係数の値に応じて、衝突による力学的エネルギーの変化を計算することができる。 ・テニスのボールやピンポン球などを用いて、はね上がった高さを測定することで、床との間の反発係数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・運動量がベクトルであることを理解し、運動量の変化と力積との関係について説明することができる。 ・フーテグラフから物体が受ける力積の大きさを、平均の力を的確に読み取ることができる。 ・作用・反作用の法則を用いて、物体が衝突や分裂をしたときの運動量保存の法則を考察することができる。 ・連結した2台の台車を分けたとき、運動量が保存されることを考察することができる。 ・反発係数を理解し、衝突における力学的エネルギーの変化を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・運動量の意味について、キャッチボールやボウリングなどの身近な例をもとに理解しようとする。 ・運動量の変化と力積との関係を用いて、さまざまな条件でおこる衝突について、運動量保存の法則を意欲的に導出しようとする。 ・力学台車を用いた実験に主体的に取り組む、運動量保存の法則の式を用いて、物体の合体や分裂について、考察しようとする。 ・ボールが跳ね返るときのように関心をもち、その現象を物理的に考えようとする。						
	第4節 円運動と単振動 ①円運動 ②等速円運動の角速度 ③慣性力と遠心力 ④単振動 ⑤万有引力による運動 【知識・技能】 ・等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力などの定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・観測者が非慣性系にあるとき、慣性力がはたらくことを理解し、その大きさを求めることができる。 ・単振動する物体にはたらく力を把握し、復元力の式を求めることができる。 ・単振り子の周期を測定し、その値が単振り子の長さだけで決まることを導くことができる。 ・人工衛星などの物体の円運動について運動方程式を立て、各物理量を計算で求めることができる。 ・万有引力による位置エネルギーを求め、物体の力学的エネルギーを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・等速円運動をさせたときの水滴の飛び散る向きから、円運動における速度の向きを考慮することができる。 ・向心力の意味を理解し、等速円運動する物体にはたらく力を的確に図示することができる。 ・観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。 ・等速円運動と比較することによって、単振動の変位や速度などの式を導くことができる。 ・単振動する物体のようすを、グラフを用いて説明することができる。 ・ケプラーの法則を用いて、万有引力の法則を導いた過程について理解し、重力との関係を式で表すことができる。 ・万有引力がする仕事との関係をもとに、万有引力による位置エネルギーの式を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・角速度、周期、回転数などの関係式を、自ら進んで導出しようとする。 ・等速円運動をしている物体の、向心力と角速度との関係を主体的に調べようとしている。 ・遠心力などの慣性力について、身近な例と結びつけて意欲的に考えようとする。 ・単振動における変位、速度などの式を意欲的に導出しようとする。 ・ケプラーの法則、万有引力の法則について学習し、万有引力と重力の関係を自ら進んで考えようとする。 ・万有引力を受けて運動する物体の力学的エネルギーについて、意欲的に考えようとする。 ・計算機を用いた、ケプラーの第3法則の確認実験に積極的に取り組んでいる。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力などの定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・観測者が非慣性系にあるとき、慣性力がはたらくことを理解し、その大きさを求めることができる。 ・単振動する物体にはたらく力を把握し、復元力の式を求めることができる。 ・単振り子の周期を測定し、その値が単振り子の長さだけで決まることを導くことができる。 ・人工衛星などの物体の円運動について運動方程式を立て、各物理量を計算で求めることができる。 ・万有引力による位置エネルギーを求め、物体の力学的エネルギーを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・等速円運動をさせたときの水滴の飛び散る向きから、円運動における速度の向きを考慮することができる。 ・向心力の意味を理解し、等速円運動する物体にはたらく力を的確に図示することができる。 ・観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。 ・等速円運動と比較することによって、単振動の変位や速度などの式を導くことができる。 ・単振動する物体のようすを、グラフを用いて説明することができる。 ・ケプラーの法則を用いて、万有引力の法則を導いた過程について理解し、重力との関係を式で表すことができる。 ・万有引力がする仕事との関係をもとに、万有引力による位置エネルギーの式を導くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・角速度、周期、回転数などの関係式を、自ら進んで導出しようとする。 ・等速円運動をしている物体の、向心力と角速度との関係を主体的に調べようとしている。 ・遠心力などの慣性力について、身近な例と結びつけて意欲的に考えようとする。 ・単振動における変位、速度などの式を意欲的に導出しようとする。 ・ケプラーの法則、万有引力の法則について学習し、万有引力と重力の関係を自ら進んで考えようとする。 ・万有引力を受けて運動する物体の力学的エネルギーについて、意欲的に考えようとする。 ・計算機を用いた、ケプラーの第3法則の確認実験に積極的に取り組んでいる。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		
	第5節 気体の性質と分子の運動 ①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事 【知識・技能】 ・注射器と台ばかりを用いて、気体の圧力と体積の関係を調べ、ボイルの法則が成り立つことを理解する。 ・ボイルの法則、シャルルの法則を用いて、ボイル・シャルルの法則を導くことができる。 ・気体に関する法則や気体の状態方程式を用いて、計算することができる。 ・分子の運動をもとにして、気体の圧力を導出する。 ・水を入れた小型ボットを激しく振って水温を上昇させることで、気体の内部エネルギーと温度の関係を調べる。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・注射器と台ばかりを用いて、気体の圧力と体積の関係を調べ、ボイルの法則が成り立つことを理解する。 ・ボイルの法則、シャルルの法則を用いて、ボイル・シャルルの法則を導くことができる。 ・気体に関する法則や気体の状態方程式を用いて、計算することができる。 ・分子の運動をもとにして、気体の圧力を導出する。 ・水を入れた小型ボットを激しく振って水温を上昇させることで、気体の内部エネルギーと温度の関係を調べる。				1

2 学 期	方程式を用いて、計算することができる。 ・ 分子の運動をもとにして、気体の圧力を導出する。 ・ 水を入れた小型ボットを激しく振って水温を上昇させることで、気体の内部エネルギーと温度の関係を調べる。 ・ 気体の状態変化に熱力学の第1法則を適用し、エネルギーの出入りを考えることができる。 ・ 熱機関の熱効率を計算で求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・ 気体の圧力が生じる原因を把握し、気体に関する各法則を考えることができる。 ・ 気体の状態方程式を用いて、さまざまな条件における気体の状態を考えることができる。 ・ 運動量と力積の関係をを用いて、気体分子の運動をもとに、気体の圧力を導くことができる。 ・ 気体の状態変化について、p-Vグラフからの確に読み取ることができる。 ・ 気体の状態変化について、その変化の違いを熱力学の第1法則を用いて説明することができる。 ・ 熱力学の第1法則や、気体の状態方程式を用いて、定積モル比熱や定圧モル比熱を考えることができる。 ・ 熱機関のしくみを理解し、熱効率を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ ボイル・シャルルの法則を利用して、気体の状態方程式を導出する過程を理解しようとする。 ・ 日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積、温度の関係を考え、物理学的に理解しようとしている。 ・ 気体の分子運動と圧力との間どのような関係があるかを予想し、主体的に導こうとしている。 ・ 圧縮発火器の原理について、気体の状態変化におけるエネルギーの出入りと結びつけ、意欲的に考察しようとしている。 ・ 気体の状態変化での熱効率の算出に意欲的に取り組む。 ・ 熱機関の製作の探究などに主体的に取り組む、熱効率を上げる方法を考えようとしている。	・ 気体の状態変化に熱力学の第1法則を適用し、エネルギーの出入りを考えることができる。 ・ 熱機関の熱効率を計算で求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・ 気体の圧力が生じる原因を把握し、気体に関する各法則を考えることができる。 ・ 気体の状態方程式を用いて、さまざまな条件における気体の状態を考えることができる。 ・ 運動量と力積の関係をを用いて、気体分子の運動をもとに、気体の圧力を導くことができる。 ・ 気体の状態変化について、p-Vグラフからの確に読み取ることができる。 ・ 気体の状態変化について、その変化の違いを熱力学の第1法則を用いて説明することができる。 ・ 熱力学の第1法則や、気体の状態方程式を用いて、定積モル比熱や定圧モル比熱を考えることができる。 ・ 熱機関のしくみを理解し、熱効率を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ ボイル・シャルルの法則を利用して、気体の状態方程式を導出する過程を理解しようとする。 ・ 日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積、温度の関係を考え、物理学的に理解しようとしている。 ・ 気体の分子運動と圧力との間どのような関係があるかを予想し、主体的に導こうとしている。 ・ 圧縮発火器の原理について、気体の状態変化におけるエネルギーの出入りと結びつけ、意欲的に考察しようとしている。 ・ 熱機関の製作の探究などに主体的に取り組む、熱効率を上げる方法を考えようとしている。	○	○	○	13	
	第1節 波の性質 ①正弦波 ②波の伝わり方 【知識・技能】 ・ 位相が表すものを理解し、正弦波を式で表すことができる。 ・ 重なりあった波の作因などを通して、定常波ができる条件を理解している。 ・ 水面波の干渉の条件について、式を用いて理解する。 ・ 水波投影装置を用いて、平面波の反射、屈折のようすを観察し、反射の法則、屈折の法則を定性的に調べる。 ・ 波の回折は、すき間の大きさや波長によって違いが生じることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 正弦波の波形と波の式を結びつけて考えることができる。 ・ y-xグラフ、y-tグラフから、振幅や周期、波長などの物理量を読み取ることができる。 ・ y-xグラフ、y-tグラフの関係を理解し、一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。 ・ ホイヘンズの原理を用いて、平面波の反射や屈折を考え、説明することができる。 ・ 平面波の回折のしくみを考え、大きく回折する条件について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 「物理基礎」で学習した内容をもとに、正弦波の式を意欲的に導出しようとしている。 ・ 身のまわりの波に関する現象に関心をもち、物理学的な観点から自ら進んで考察しようとしている。 ・ ホイヘンズの原理を用いて、平面波の反射・屈折における法則性を考えようとする。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 位相が表すものを理解し、正弦波を式で表すことができる。 ・ 重なりあった波の作因などを通して、定常波ができる条件を理解している。 ・ 水面波の干渉の条件について、式を用いて理解する。 ・ 水波投影装置を用いて、平面波の反射、屈折のようすを観察し、反射の法則、屈折の法則を定性的に調べる。 ・ 波の回折は、すき間の大きさや波長によって違いが生じることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 正弦波の波形と波の式を結びつけて考えることができる。 ・ y-xグラフ、y-tグラフから、振幅や周期、波長などの物理量を読み取ることができる。 ・ y-xグラフ、y-tグラフの関係を理解し、一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。 ・ ホイヘンズの原理を用いて、平面波の反射や屈折を考え、説明することができる。 ・ 平面波の回折のしくみを考え、大きく回折する条件について説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 「物理基礎」で学習した内容をもとに、正弦波の式を意欲的に導出しようとしている。 ・ 身のまわりの波に関する現象に関心をもち、物理学的な観点から自ら進んで考察しようとしている。 ・ ホイヘンズの原理を用いて、平面波の反射・屈折における法則性を考えようとする。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
第2節 音波	①音の伝わり方 ②ドップラー効果 【知識・技能】 ・ 第1節で学習した反射の法則や屈折の法則、波の干渉条件などを、音波に適用して理解する。 ・ 低周波発振器を利用して、音波が干渉するようすを調べることができる。 ・ 音源や観測者が動く場合の音波の波長や振動数の変化について、式を用いて理解する。 【思考・判断・表現】 ・ 音が波であることを踏まえ、反射や屈折、回折などの音波の性質を考えることができる。 ・ クラインゲ管を用いた探究などを通して、干渉のようすから音速および音波の波長を測定することができる。 ・ 音波の伝わる速さが音源の速度に関係しないことから、ドップラー効果によって変化する波長や振動数を導出することができる。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・音源1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 第1節で学習した反射の法則や屈折の法則、波の干渉条件などを、音波に適用して理解する。 ・ 低周波発振器を利用して、音波が干渉するようすを調べることができる。 ・ 音源や観測者が動く場合の音波の波長や振動数の変化について、式を用いて理解する。 【思考・判断・表現】 ・ 音が波であることを踏まえ、反射や屈折、回折などの音波の性質を考えることができる。 ・ クラインゲ管を用いた探究などを通して、干渉のようすから音速および音波の波長を測定することができる。 ・ 音波の伝わる速さが音源の速度に関係しないことから、ドップラー効果によって変化する波長や振動数を導出することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 音が伝わるようすに関心をもち、音波の反射・屈折・回折・干渉について考えようとする。 ・ クラインゲ管を用いた探究など、積極的に実験活動に取り組んでいる。 ・ 小型の防犯ブザーをキャッチボールして、音の高さが変化することを積極的に確認しようとする。	○	○	○	9

【主体的に学習に取り組む態度】 ・音が伝わるようにするに関心を持ち、音波の反射・屈折・回折・干渉について考えようとする。 ・クインク管を用いた探究など、積極的に実験活動に取り組んでいる。 ・小型の防犯ブザーをキャッチボールして、音の高さが変化することを積極的に確認しようとしている。 ・身近な現象と結びつけてドップラー効果を理解し、波長や振動数の変化を物理学的にとらえようとする。									
第3節 光波 ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉 【知識・技能】 ・光が波の一種であり、波長の大きさなどによって分類されることを知る。 ・光の速さを把握し、反射の法則、屈折の法則の式を理解する。 ・光の分散、散乱、偏光など、波としての光の性質を理解する。 ・凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡のそれぞれの性質を知る。 ・レンズの式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、レンズの一般的な特徴を理解する。 ・球面鏡の式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、球面鏡の一般的な特徴を理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉など、さまざまな光の干渉条件について式を適用する。 【思考・判断・表現】 ・フィゾーの実験の原理を理解し、光速の導出方法を説明することができる。 ・光が波であることを踏まえ、光の反射・屈折などの性質を考察できる。 ・直方体のガラスと針を利用して、ガラスの屈折率を測定することができる。 ・光の波長と屈折率の関係を理解し、光の分散、散乱などの性質を考察できる。 ・凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡の基本的な性質を学習し、光の進み方、像のできる条件などを説明できる。 ・ヤングの実験、回折格子による光の干渉を学習し、薄膜、くさび形空気層などによる光の干渉条件を導くことができる。 ・レーザーポインタと二重スリットを用いた光の干渉に関する探究などを通して、レーザー光の波長と干渉縞の間隔との関係を考察できる。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・光が波の一種であり、波長の大きさなどによって分類されることを知る。 ・光の速さを把握し、反射の法則、屈折の法則の式を理解する。 ・光の分散、散乱、偏光など、波としての光の性質を理解する。 ・凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡のそれぞれの性質を知る。 ・レンズの式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、レンズの一般的な特徴を理解する。 ・球面鏡の式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、球面鏡の一般的な特徴を理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉など、さまざまな光の干渉条件について式を適用する。 【思考・判断・表現】 ・フィゾーの実験の原理を理解し、光速の導出方法を説明することができる。 ・光が波であることを踏まえ、光の反射・屈折などの性質を考察できる。 ・直方体のガラスと針を利用して、ガラスの屈折率を測定することができる。 ・光の波長と屈折率の関係を理解し、光の分散、散乱などの性質を考察できる。 ・凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡の基本的な性質を学習し、光の進み方、像のできる条件などを説明できる。 ・ヤングの実験、回折格子による光の干渉を学習し、薄膜、くさび形空気層などによる光の干渉条件を導くことができる。 ・レーザーポインタと二重スリットを用いた光の干渉に関する探究などを通して、レーザー光の波長と干渉縞の間隔との関係を考察できる。							
定期考査				○	○				12
第1節 電場と電位 ①静電気力 ②電場 ③電位 ④コンデンサー 【知識・技能】 ・静電気力に関するクーロンの法則を理解し、さまざまな条件で電場の強さを計算できる。 ・電位を計算し、等電位面と電気力線の関係を理解する。 ・静電誘導、誘電分極を踏まえ、電場中の導体、不導体における電場、電位の様子を理解する。 ・アルミニウム箔とプラスチック製のコップを利用してコンデンサーを作製し、コンデンサーの原理を理解する。 ・コンデンサーにおける基本的な公式を理解し、さまざまな条件における電気容量やたくわえられる電荷を求めることができる。 ・静電エネルギーの式の導出過程を理解し、エネルギーを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・静電誘導、誘電分極のしくみを説明することができる。 ・カラーパウダーとサラダ油を利用した、電気力線の観察実験を通して、電気力線の性質を考察する。 ・電場と電気力線の関係を理解し、帯電体に入力する電気力線を定量的に考えることができる。 ・直流電源装置と黒色面用紙を用いた探究を通して、得られた等電位線から電気力線の様子を指示することができる。 ・帯電した金属板間の導体や不導体について、電場や電位の様子	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・静電気力に関するクーロンの法則を理解し、さまざまな条件で電場の強さを計算できる。 ・電位を計算し、等電位面と電気力線の関係を理解する。 ・静電誘導、誘電分極を踏まえ、電場中の導体、不導体における電場、電位の様子を理解する。 ・アルミニウム箔とプラスチック製のコップを利用してコンデンサーを作製し、コンデンサーの原理を理解する。 ・コンデンサーにおける基本的な公式を理解し、さまざまな条件における電気容量やたくわえられる電荷を求めることができる。 ・静電エネルギーの式の導出過程を理解し、エネルギーを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・静電誘導、誘電分極のしくみを説明することができる。 ・カラーパウダーとサラダ油を利用した、電気力線の観察実験を通して、電気力線の性質を考察する。 ・電場と電気力線の関係を理解し、帯電体に入力する電気力線を定量的に考えることができる。 ・直流電源装置と黒色面用紙を用いた探究を通して、得られた等電位線から電気力線の様子を指示することができる。 ・帯電した金属板間の導体や不導体について、電場や電位の様子					○	○	18
定期考査				○	○				1

3 学 期	をグラフに表すことができる。 ・コンデンサーにたくわえられる電気量と、極板の面積、極板間の距離との関係を導くことができる。 ・コンデンサーの極板間の電場や電位差など、各量について、誘電体による変化を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「物理基礎」で学習した内容を踏まえ、静電気力、電場、電気力線の性質について意欲的に考えようとする。 ・電場や電位の関係、等電位面と電気力線の関係、静電誘導、誘電分極の現象などを自ら進んで理解しようとする。 ・コンデンサーの製作に主体的に取り組み、コンデンサーの原理で、誘電体によって変化するコンデンサーの電気容量などについて、自ら進んで考えようとしている。 ・電池のする仕事と静電エネルギーの関係について、意欲的に考える。		電気力、電場、電気力線の性質について意欲的に考えようとする。 ・電場や電位の関係、等電位面と電気力線の関係、静電誘導、誘電分極の現象などを自ら進んで理解しようとする。 ・コンデンサーの製作に主体的に取り組み、コンデンサーの原理や、誘電体によって変化するコンデンサーの電気容量などについて、自ら進んで考えようとしている。 ・電池のする仕事と静電エネルギーの関係について、意欲的に考える。	〇	〇		1
	定期考査			〇	〇		合計
							105

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学

教科：理科 科目：化学 単位数：3 単位
対象学年組：第2学年 A.D 組
教科担当者：（A組：中込）（D組：中込）
使用教科書：（化学704「化学」 実教出版、「アクセスノート化学 新課程版」 実教出版）
教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を身に付ける。
- 【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮設の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に	化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	序章 【知識及び技能】 ・ 化学は物質を対象とする学問であること理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 生活と化学の関わり、化学による物質を探究する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ これからの化学に関して興味関心を深めていく。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 物質がどのように人間生活に関わり合いを持っているかを理解している。すでに学習している化学基礎との関連をしっかりと理解し、知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・ 日常生活について化学的な考え方をすることにより、安全で健康的な生活など豊かに なっていることに気づき、今後の人間生活と化学との関わりを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	3
	第1章 物質の状態と平衡 1節 状態変化 2節 固体の構造 【知識及び技能】 ・ 物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質について理解させる。 ・ 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連させて理解させる。 ・ 結晶格子の概念および結晶の構造を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 物質の状態変化は、構成粒子の分子運動が関係していることや分子運動が温度・圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる力を養う。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解している。また、状態変化に伴うエネルギーの出入りおよび状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解している。 ・ 結晶格子の概念および結晶の構造について理解している。 ・ 結晶格子の概念について、身近な物質を例にしたり、結晶構造のモデルを用いたりして、特徴を観察する技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・ 物質の状態変化は、構成粒子の分子運動が関係していることや分子運動が温度・圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。 ・ 状態間の平衡について、気液平衡や蒸気圧	○	○	○	12
	定期考査 第1章 物質の状態と平衡 3節 気体の性質 4節 溶液 【知識及び技能】 ・ 気体の体積と圧力や温度との関係を理解させる。 ・ 溶液のしくみ、溶解度を溶解平衡と関連づけて理解させる。 ・ 身近な現象を通して溶媒と溶液の違いを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 気体の法則や希薄溶液の示す性質などについて化学的に考察し、その考えを説明することができる力を養う。	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 気体の体積と圧力や温度変化との関係を理解している。 ・ 溶液の性質の法則性、コロイド溶液に関する事象について理解し、知識を身につけている。 ・ 実験においては、沸点や融点の測定には減圧下や加圧下での沸騰実験などにも拡張、実験の測定結果から量的関係を的確に表現できる。 【思考・判断・表現】 ・ 気体の法則や希薄溶液の示す性質などについて化学的に考察し、その考えを説明すること	○	○		1
	第2章 物質の変化と平衡 1節 化学反応と熱・光エネルギー 2節 化学反応と電気エネルギー 【知識及び技能】 ・ 化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解させる。 ・ 外部から加えられた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解する。その反応に関与した変化量と電気量との関係を理解させる。 ・ 電池は酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出すしくみであることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 化学反応に伴って熱、光、電気エネルギーの出入りがあること	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク 一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 化学反応における熱および光の発生や吸収は、反応前後における化学エネルギーの差から生じる事を理解している。 ・ ヘスの法則について理解している。 ・ 化学発光や生物発光、光化学反応について理解している。 ・ 化学電池の仕組みについて理解している。 ・ 外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こること、また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 化学反応に伴って熱、光、電気エネルギーの出入りがあることを、代表的な物質の反応や性質の比較から推論することができる。また、導き出した考えを的確に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 化学反応に伴うさまざまなエネルギーの	○	○	○	18

	定期考査			○	○		1
	第2章 物質の変化と平衡 3節 反応の速さとしくみ 【知識及び技能】 ・ 反応速度の表し方および反応速度に影響を与える要因を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 化学反応が温度・濃度・触媒の影響などを受けることを、代表的な物質の反応や性質の比較から推論することができる。また、導き出した考えを的確に表現する力	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 反応速度の表し方、反応速度に影響を与える要因などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 化学反応が温度・濃度・触媒の影響などを受けることを、代表的な物質の反応や性質の比較から推論することができる。また、導き出した考えを的確に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 温度・濃度・触媒などが反応の速さに影響することを意欲的に探究・考察しようとする	○	○	○	15
2 学 期	第2章 物質の変化と平衡 4節 化学平衡 【知識及び技能】 ・ 可逆反応、化学平衡および化学平衡の移動を理解させる。 ・ 水のイオン積、pH、弱酸、弱塩基の電離平衡、溶解度積について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 化学平衡になる典型的な反応について、実証的・論理的に分析し、科学的に考えることができる	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 可逆反応や化学平衡の移動、水のイオン積、pH、弱酸、弱塩基の電離平衡、溶解度積などについて理解している。 ・ 化学平衡に関する観察、実験などを行い、その操作や記録などの技能が習得でき、結果から結論を導くことができる。 【思考・判断・表現】 ・ 化学平衡になる典型的な反応について、実証的・論理的に分析し、科学的に考えることができる	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第3章 無機物質 1節 元素と周期表 2節 非金属元素 【知識及び技能】 ・ 非金属元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連させ理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 無機物質の性質や反応などについて、周期表と関連づけて考察することができる力を養う。 ・ 日常生活と関わりの深い無機物質について、観察実験を通して、規則性を見出し、さまざまな事象が生じる要因やしくみを科学的に考察して報告書にまとめることができる力を養う。 ・ 無機物質と化学工業との関係	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 非金属元素の単体・化合物の性質や反応について、周期表と関連づけながら理解し、知識を身につけている。 ・ 無機物質の性質や反応について、観察実験の基本操作や記録の仕方を習得するとともに、実験器具の選定や扱い方が身についている。 ・ 観察、実験過程や結果から生じる問題や発見事項について、自ら考えを導き出して、新しい課題を設定することができる。 ・ 無機物質が実験を通してどのように人間生活に利用されているかを知る。 【思考・判断・表現】 ・ 無機物質の性質や反応などについて、周期表と関連づけて考察することができる。 ・ 日常生活と関わりの深い無機物質について、観察実験を通して、規則性を見出し、さまざまな事象が生じる要因やしくみを科学的に考察して報告書にまとめることができる力を養う。 ・ 無機物質と化学工業との関係	○	○	○	21
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第3章 無機物質 3節 典型金属元素 4節 遷移元素 【知識及び技能】 ・ 金属元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 日常生活と関わりの深い無機物質について、観察実験を通して、規則性を見出し、さまざまな事象が生じる要因やしくみを科学的に考察して報告書にまとめることができる力を養う。 ・ 無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点で捉え、科学的に考察、判断できる力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 無機物質について観察、実験	・指導事項 基本的な概念や原理・法則の解説、問題演習、小テスト、課題提出 ・教材 教科書・授業プリント・ワーク ・一人1台端末の活用 等 タブレットによる参考資料の配布	【知識・技能】 ・ 金属元素の単体・化合物の性質や反応について、周期表と関連づけながら理解し、知識を身につけている。 ・ 典型元素と遷移元素の特徴を正確に把握できている。 ・ 無機物質がその特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解し、その知識を応用することができる。 ・ 無機物質の性質や反応について、観察実験の基本操作や記録の仕方を習得するとともに、実験器具の選定や扱い方が身についている。 ・ 観察、実験過程や結果から生じる問題や発見事項について、自ら考えを導き出して、新しい課題を設定することができる。 【思考・判断・表現】	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
							合計 105

高等学校 令和 7 年度（2 学年用） 教科 理科 科目 生物基礎			
教 科：	理科	科 目：	生物基礎
対象学年組：	第 2 学年	A 組～	H 組
教科担当者：	(A組開発 B組辰田 C組開発 D組辰田 E組開発 F組辰田 G組末重 H組辰田)		
使用教科書：	(生基704 「高校生物基礎」 実教出版)		
教科 理科	の目標：		
【知 識 及 び 技 能】	自然の事物・現象やその法則性を理解し、科学的に探究するための実験等の基本操作を身に付ける。		
【思考力、判断力、表現力等】	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって実験を行い、科学的に分析し表現する力を身に付ける。		
【学びに向かう力、人間性等】	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。		
科目	の目標：		

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことをとおして、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究している。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとしている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 【知識及び技能】 様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。また、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・指導事項 ・さまざまな生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見出し理解させる。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来するを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解させる。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解させる。 ・顕微鏡、ミクロメータの使い方 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解している。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 【思考・判断・表現】 ・資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見出し表現することができる。 ・細胞におけるDNAのはたらきについて理解し、説明するができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の共通性を、実験や観察を通して見出し、理解しようとしている。 ・原核細胞と真核細胞について、細胞に含まれる細胞小器官をもとに、違いを理解しようとしている。	○	○	○	8
	2節 生物とエネルギー 【知識及び技能】 生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。また、光合成や呼吸などの代謝とATP を関連付けて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解させる。その際、呼吸と光合成の概要を扱う。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのか理解させる。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解させる。 ・オキザゲモ、ミシジメの観察 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・生体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、ATPと関連付けて考察し、それを表現できている。 ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとしている。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとしている。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとしている。	○	○	○	11
	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 DNA の構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNA の特徴を見いだして理解する。とともに、塩基の相補性とDNA の複製を関連付けて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解させる。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・DNA模型の作製 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解させる。 ・すべての遺伝子が細胞内で常に発現しているわけではないことを理解させる。 ・DNAの抽出実験 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現するを理解している。 ・試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 【思考・判断・表現】 ・mRNAとアミノ酸との対応関係について、遺伝暗号表から読み解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとしている。	○	○	○	13
	2節 体内環境の維持のしくみ 【知識及び技能】 体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解する。 体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解する。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・体内での情報の伝達がからだの調節に関係していることを見出して理解させる。 ・体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解させる。 ・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見出して理解させる。 ・ヒトの体液濃度の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解させる。 ・血糖濃度がホルモンと自律神経が関わるしくみで調節されていることについて理解させ、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。 ・腎臓の構造と観察 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。 ・ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。 ・実験により得られたデータを比較・分析するにより、結論を導き出すことができる。 【思考・判断・表現】 ・からだの調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見出して理解することができる。 ・血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達がからだの調節に関係していることを見出し、理解しようとしている。 ・資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見いだし、理解しようとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
3 学 期	3節 免疫 【知識及び技能】 免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生物や生物現象に主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し科学的に探究し、解決する。	・ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解させる。 ・病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解させる。 ・免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・一次応答と二次応答の違いを理解させ、同じ疾患に二度かかりにくい理由を考察させる。 ・ヒトの身近な免疫疾患について理解させる。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 ・免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。 【思考・判断・表現】 ・資料に基づき、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。 ・病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 ・ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・免疫について、身近な現象と絡めて理解しようとしている。	○	○	○	10
	3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全 【知識及び技能】 生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解する。また、生物の種多様性と生物間の関係性との関連付けて理解する。 生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。また、生態系の保全の重要性を認識する。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付ける。	・生態系における生物の種多様性について理解させる。 ・生物の種多様性と生物間の関係性との関連付けて理解させる。 ・捕食によって物質とエネルギーが移動するを理解させる。 ・生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させる。 ・生態系の保全の重要性について認識させる。 ・自然環境の保全に寄与する態度を育てる。 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ・生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。 ・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 ・野外で行う調査・実験の方法を習得している。 ・インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。 【思考・判断・表現】 ・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などから、生態系における生物の種多様性を見いだすことができる。 ・生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 ・世界の環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できている。 ・生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組

教科担当者：（A～H組：浅原、田口、山本）

使用教科書：（「ステップアップ高校スポーツ」（大修館書店））

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	単元：体づくり運動 【知識及び運動】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとし、などや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 オリエンテーション 集団行動 ラジオ体操 基礎運動 体力テスト ・教材 新体力テスト実施要領 ・一人1台端末の活用 等	【知識・運動】 体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書き出したりにしている。 【思考・判断・表現】 生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。 【主体的に学習に取り組む態度】 体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。 一人ひとりの違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。	○	○	○	6
	単元：陸上競技 【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、などや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 リレー指導 脚力教科トレーニング ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めることができる。 【思考・判断・表現】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、などや、健康・安全を確保しようとしている。	○	○	○	8
	単元：水泳 【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。 【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、	・指導事項 泳法指導 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 複数の泳法で泳ぐこと、またはリレーをすることができる。 【思考・判断・表現】 泳法などの事故や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、自己の責任を果たそうとし、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、などや、水泳の	○	○	○	8

	と、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。		事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。				
	単元：水泳 【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。 【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。	・指導事項 泳法指導 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。複数の泳法で泳ぐこと、またはリレーをすることができる。 【思考・判断・表現】 泳法などの事故や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	6
	単元：球技 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 バスケットボール ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出している。 【思考・判断・表現】 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に仲間の課題や出来栄を伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の検討を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。	○	○	○	10
2 学 期	単元：球技 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 サッカー ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出している。 【思考・判断・表現】 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に仲間の課題や出来栄を伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の検討を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。	○	○	○	10
	単元：陸上競技 【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の仲間の考えたことを他者に伝えること。	・指導事項 長距離走 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。 【思考・判断・表現】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。				

	し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。		ている。 【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。	○	○	○	6
	単元：陸上競技 【知識及び技能】 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 長距離走 ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。 【思考・判断・表現】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。 【主体的に学習に取り組む態度】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保しようとしている。	○	○	○	8
3 学 期	単元：球技 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	・指導事項 バスケットボール ・教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出している。 【思考・判断・表現】 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に仲間の課題や出来栄を伝えていく。 【主体的に学習に取り組む態度】 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 マナーを守ったり相手の検討を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。	○	○	○	8
							合計
							70

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組

教科担当者：ACF：山本、BDH：田口、EG：浅原

使用教科書：（『現代高等保健体育』（大修館書店））

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	単元：安全な社会生活 【知識及び技能】 個人及び社会生活において、様々な事故や災害が発生している。安全な社会を形成するには、事故等の防止に加え、発生に伴う傷害などを軽減することが重要である。事故等の発生には人的要因及び環境要因が関わることを踏まえ、個人の取組に加えて社会的な取組が求められることを理解するとともに、危険の予測やその回避の方法を考えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	・指導事項 安全な社会生活、応急手当 ・教材 教科書「現代高等保健体育」 パワーポイントの活用 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとする。 【思考・判断・表現】 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることに、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。	○	○	○	11
	定期調査			○	○	○	1
2 学期	単元：生涯を通じる健康 【知識及び技能】 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解する。労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をすることがあることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	・指導事項 生涯の各段階における健康、労働と健康 ・教材 教科書「現代高等保健体育」 パワーポイントの活用 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとする。 【思考・判断・表現】 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることに、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。	○	○	○	13
	定期調査			○	○	○	1
3 学期	【知識及び技能】 ・研究発表を通して、自己の疑問を検証し、解決することができる 【思考力、判断力、表現力等】 ・個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることに、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。 ・他社の発表を通して、自己の考察や意見を持つことができる 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	・研究発表形式 ・テーマ探しとテーマ決定 ・研究活動計画の検討 ・中間発表 ・研究発表 ・まとめレポート作成	【知識・技能】 ・研究発表を通して、自己の疑問を検証し、解決することができる 【思考・判断・表現】 ・レポートの内容が一貫して序論から結論までまとめられている。 ・個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることに、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。 ・他社の発表を通して、自己の考察や意見を持つことができる 【主体的に学習に取り組む態度】 健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。	○	○	○	8
	定期調査			○	○	○	1
							合計 35

[illegible]

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅱ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組

教科担当者： 池田、鈴木、額賀、針谷、村松

使用教科書：（ APPLAUSE Ⅱ English Logic and Expression Ⅱ ）

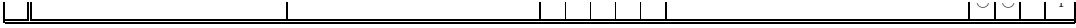
教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解する。外国語の技能（話すこと、書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 場面・目的・状況等に応じて、目的や状況等に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
- 【学びに向かう力、人間性等】 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

科目 論理・表現Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
【知識】 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。	目的や場面・状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
【技能】 目的や場面・状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。		

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書					
1 学期	A 単元 Lesson1 Reflections Before Starting a New Life	・時制を正しく用いて表現することができる。 ・興味のあることについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする姿勢がみられる。	○	○	○	○	○	【題材】 趣味・クラブ活動 【題材に関するタスク】 ・趣味やクラブ活動に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・趣味やクラブ活動について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・動詞の時制について学んで理解する。 ・時や状況に応じて動詞の時制を正しく使う。	○	○	○	4
	B 単元 Lesson 2 Let Your Dreams Come True	・名詞句や名詞節を正しく用いて表現することができる。 ・日常生活について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする姿勢がみられる。	○	○	○	○	○	【題材】 日常生活 【題材に関するタスク】 ・日常生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・日常生活について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・不定詞（名詞用法）・動名詞・名詞節について学んで理解する。 ・伝えたいことに応じて、不定詞・動名詞・名詞節を正しく使う。	○	○	○	5
	定期考査								○	○		1
	C 単元 Lesson 3 Dos and Don'ts in Social Media	・助動詞を正しく用いて表現することができる。 ・学校生活について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする姿勢がみられる。	○	○	○	○	○	【題材】 学校生活 【題材に関するタスク】 ・学校生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・学校生活について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・助動詞について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて、助動詞を正しく使う。	○	○	○	6
	D 単元 Lesson 4 Future Prospects	・形容詞や分詞を正しく用いて表現することができる。 ・メディアリテラシーについて話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする姿勢がみられる。	○	○	○	○	○	【題材】 ソーシャルメディア 【題材に関するタスク】 ・ソーシャルメディアに関する文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・ソーシャルメディアについて話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・形容詞のはたらきや分詞の形容詞用法について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて、適切な形容詞を用いて文を作る。	○	○	○	6
	E 単元 Lesson 5 Let's Keep in Good Shape	・形容詞句を正しく用いて表現することができる。 ・ボランティア活動について話したり書いたりすることができる。 ・意欲的にコミュニケーションを行い、自分のことを伝え、相手の言うことを理解しようとする姿勢がみられる。	○	○	○	○	○	【題材】 ボランティア活動 【題材に関するタスク】 ・ボランティア活動についての文章を読んだり聞いたりして理解する。 ・ボランティア活動について話したり、文章を書いたりする。 【文法】 ・さまざまな表現を使った形容詞句について学んで理解する。 ・伝えたい意味に応じて、適切な形容詞句を用いて文を作る。	○	○	○	6
	定期考査								○	○		



[illegible]

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位
対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組
教科担当者：（A`G組：有川 H組：麻野間 ）
使用教科書：（ 実教出版「図説 家庭基礎」 ）
教科 家庭 の目標：

- 【知識及び技能】 人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 ささまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を想像し、実践しようとする態度を失視会う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A単元「自分らしい生き方と家族」 【知識及び技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一人としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとする。	・PDCAサイクルにのっとり生活設計について考える。 ・ライフプランを作成し生活にはどのような場面で金銭が必要となるか考える。 ・青年期の生き方について自立の観点から学習する。 ・自己分析をすることで自分らしい生き方について考える。 ・生活を支える労働について学ぶ。 ・将来の職業選択について考える。 ・生活時間について考え、男女の違いについて比較する。 ・男女共同参画社会をめざす	【知識・技能】 ・各ライフステージごとの発達課題について理解し、それぞれの発達段階で起こり得るライフイベントと関連させて理解することができる。 ・生活設計と生活資源の重要性について理解できる。 ・4つの自立について理解し、自分らしさは一人ひとり異なることを理解できる。 ・職業労働の雇用形態について理解し、職業には自己実現の要素もあることが理解できる。 ・家事労働の意義や大切さについて理解できる。 ・固定的性別役割分業やワークライフバランスなどについて理解できる。 【思考・判断・表現】 ・自分の適性について考えることができる。 ・自分のライフプランを考えることができる。 ・自分自身の生活を見つめ、自立へむけて課題を発見し、将来の発達課題ともかわり合わせ自身の将来について思考・判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自己分析をして、自分らしい生き方について考えられる。 ・職業について、近い将来のことという意識をもって、積極的に学習に臨んでいる。 ・男女共同参画社会など、現在の社会的状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。	○	○	○	6
	B 単元「衣生活をつくる」 【知識及び技能】 ・目的に応じた被服の機能と着装について理解するとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができるようになる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解するとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとする。	・人と衣服のかかわりや、衣服の機能について ・快適で安全な衣服について ・繊維の種類と特徴、糸や布について ・家庭での洗濯・保管の方法 ・衣生活と資源・環境とのかかわり、また、環境に配慮した衣生活について ・ファストファッションについて	【知識・技能】 ・衣服が着用されるようになった説について、その背景や風土などを考えながら理解できる。 ・自然環境と衣服のかかわり、社会環境と衣服の関係から、衣服が持つ機能を理解することができる。 ・健康と安全に配慮した着装について理解できる。 ・繊維の種類と特徴と用途が理解できる。 ・織物・編物の種類や構造が理解できる。 ・実生活において、衣類の入手から処分まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。 ・衣服を購入する際の表示の見方、洗濯する際の表示の見方がわかる。 ・衣類の製造には、多くのエネルギーが使われていることを知り、衣類と資源についての関係が理解できる。 ・洗濯の環境への影響、廃棄処分における環境への影響を考え、リユースなど、環境に配慮した衣生活につなげることができる。 ・私たちの衣生活が世界規模で営まれていることを理解できる。 【思考・判断・表現】 ・快適な衣服とはどのような着心地か考えられる。 ・衣服の購入の際、自分のサイズを把握し、表示から必要な情報を読み取ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・和服の特徴や装いなどに関心を持ち、理解を深めようとしている。 ・実験に積極的に取り組んでいる。 ・被服実習に積極的に取り組んでいる。	○	○	○	12
	C 単元「ホームプロジェクト」 【知識及び技能】	・ホームプロジェクトに関心を持ち、主体的に学習活動に取り組む。	【知識・技能】 ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動				

2 学 期	ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	む。 ・生活上の課題を見いだし、その解決を目指して計画をたてる。 ・生活上の課題に対する成果と課題をまとめて発表し、活動全体を振り返る	動の意義と実施方法について理解している。 【思考・判断・表現】 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
	D単元「食生活と健康」 【知識及び技能】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解するとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 【思考力・判断力・表現力等】 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・食生活と健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について ・5大栄養素と水について ・からだのつながりについて ・炭水化物の働きと、炭水化物を多く含む食品について ・脂質の働きと、脂質を多く含む食品について ・たんばく質の働きと、たんばく質を多く含む食品について ・ビタミンの働きと、ビタミンを多く含む食品について ・ミネラルの働きと、ミネラルを多く含む食品について ・味に大きな影響を及ぼす調味料や香辛料、さまざまな加工食品について ・食品の旬や選択する際のポイント、食品の品質表示について ・食中毒の種類 ・食品添加物の使用の目的や安全性について ・調理の実践と理論やコソ	【知識・技能】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解するとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	10
	A単元「自分らしい生き方と家族」 【知識及び技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・さまざまな家族形態について ・世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。 ・世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。 ・家族に関する法律を知り、その理念や現在の動きについて学ぶ。	【知識・技能】 ・結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について理解している。 ・世帯構成や世帯人員のグラフから、時代とともに変化していることを理解できる。 ・家族に関する課題が生じており、それに対する社会的支援があることを理解できる。 ・家族の法律の理念が理解できる。 ・民法改正について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・家族に関する法律についての知識を身に付けている。 ・人の一生に関わる法律について理解しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分にとっての家族について考えられる。人により家族と思う範囲や家族形態が異なることについてわかるようとしている。将来の自分がつくる家族について考えようとしている。 ・法律と自分のかかわりについて理解し、成年年齢の変更や理由、権利と責任などについて、考えようとしている。	○	○	○	8
	単元「子どもの生活と保育」 【知識及び技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。 【思考力・判断力・表現力等】 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・人の発達において、保育や人とのかかわりがいかに重要であるかを、事例をもとに考える。 ・子どものよい生活習慣はすこやかな成長を促すことや、子どもの健康管理や安全対策の重要性について学ぶ。 ・子どもを生み育てる意義と人間形成の過程について考える。 ・これからの親子関係について、事例をもとに考える。 ・子育てにおける社会環境について考える	【知識・技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。				

課題を設定し、解決策を模索し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・仕事と子育てが両立できる環境について考える。 ・子どもの権利とその歩みについて学習する。 ・子どもの福祉に関する活動と社会的問題について考える。	を評価する力を身に付けていく。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
E単元「共生社会と福祉」 【知識及び技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けていく。	・介護保険制度について学習する。 ・これからの介護と課題について、事例を用いて考える。 ・福祉、ソーシャル・インクルージョンの考え方を学ぶ。 ・自助、互助、共助、公助の状況に応じたバランスを考える。 ・社会保障制度とその目的について学ぶ。 ・地域福祉の担い手を考え、助けることについて学ぶ。	【知識・技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 【思考・判断・表現】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解	○	○	○	6

高等学校 令和7年度（2学年用）教科総合的な探究の時間科目総合的な探究の時間

教科：総合的な探究の時間科目：総合的な探究の時間単位数：1単位

対象学年組：第2学年A組～H組

教科担当者：（A組：山本）（B組：塚本）（C組：林田）（D組：久保）（E：額賀）（F：有川）（G：高橋）（H：村松）

使用教科書：（）

教科総合的な探究の時間の目標：
【知識及び技能】課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付ける。
【思考力、判断力、表現力等】自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】探究に主体的・協働的に取り組み、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目総合的な探究の時間の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
探究活動については、自らが選択した分野における探究活動を通じて、基本的な知識を身に付ける。	探究活動については、自らが選択した分野における探究活動を通じて、地域社会と協働する態度の育成や異文化理解を深め、更なる探究を行う。そしてその成果を発表することでプレゼンテーション能力を養う。	キャリア教育の分野では、個々人のキャリアデザインに基づいて自ら設定した進路目標に関する課題の知識・情報を収集させ、自らの進路実現に向けた取り組みを促す。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】 学問分野別探究活動 大学で広く学ばれている分野について理解を深める。	探究活動の意義と方法 【大学体験授業】 （経済・商業・理工）学部学科調べ 【大学体験授業】 （経済・商業・理工）学部学科調べ	【知識及び技能】 ワークシートの取り組み状況	○			4
	【知識及び技能】 学問分野別探究活動 大学で広く学ばれている分野について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の興味関心を知り、課題を発見する。	【大学体験授業】 （経済・商業・理工）学部学科調べ 【社会的・職業的自立支援教育プログラム】ライフプランニング授業 【演習】 【分野別探究グループ活動①】 グループでの探究課題の設定	【知識及び技能】 ワークシートの取り組み状況	○			4
	定期考査						
	【知識及び技能】 学問分野別探究活動 大学で広く学ばれている分野について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の興味関心を知り、課題を発見する。	【分野別探究グループ活動②】 情報収集（調べ学習） 【分野別探究グループ活動③】 情報収集（調べ学習）	【知識及び技能】 ワークシートの取り組み状況	○	○		4
	【思考力、判断力、表現力等】 自身の興味関心を知り、課題を発見する。 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協力しながら、学問分野について発表する。	【分野別探究グループ活動④】 情報収集（調べ学習）	【知識及び技能】 ワークシートの取り組み状況		○	○	4
	定期考査						
2 学 期	【思考力、判断力、表現力等】 収集した情報を整理・分析し発表資料の作成を行う。 【学びに向かう力、人間性等】 意見を交換しながら、情報の精査をし、まとめの方向性や計画を練る。	【体験】上級学校訪問 ・上級学校訪問事前指導 《受験方式・受験科目等》 【分野別探究グループ活動⑤】 情報収集（調べ学習） 【社会的・職業的自立支援教育プログラム】インタビューワークショップ《16歳の仕事塾》	【思考力、判断力、表現力等】 課題解決状況 【学びに向かう力、人間性等】 発表や活動への取り組み状況		○	○	6
	【思考力、判断力、表現力等】 収集した情報を整理・分析し発表資料の作成を行う。 【学びに向かう力、人間性等】 意見を交換しながら、情報の精査をし、まとめの方向性や計画を練る。	【分野別探究グループ活動⑥】 パワーポイント作成（発表準備）	【思考力、判断力、表現力等】 課題解決状況 【学びに向かう力、人間性等】 発表や活動への取り組み状況		○	○	5
3 学 期	【思考力、判断力、表現力等】 探究のまとめをレポートにする。	【分野別探究グループ活動⑦】 パワーポイント作成（発表準備）	【学びに向かう力、人間性等】 発表や活動への取り組み状況				
	【学びに向かう力、人間性等】 意見を交換しながら、情報の精査をし、まとめの方向性や計画を練る。	【分野別探究グループ活動⑧】 クラス内発表《プレゼンテーション》			○	○	5
	【学びに向かう力、人間性等】 1年間の探究の成果について発表せる。	【分野別探究グループ活動⑧】 クラス内発表《プレゼンテーション》 【社会的・職業的自立支援教育プログラム】面接指導—自己表現の重要性を自覚する 探究活動のまとめ・代表生徒による発表・情報の収集と整理	【学びに向かう力、人間性等】 発表や活動への取り組み状況			○	3
							合計 35